

ちようふの自然だより

2011.4

2世紀
6号

ちようふ環境市民会議 info@chofu-kankyo-shimin.org

発行部数：1000部

並木、公園、そして個人の敷地でも、冬の間に葉を落とした樹木は樹形が気になります。あなたの近くにも気になる木がありますか？

きになるき



右の三点の写真は同じ樹種ですが、わかりますか？ そう、どれもケヤキなのです。大國魂神社や表参道のケヤキとは似ても似つかない樹形になっていますが、多くの場合は落ち葉の清掃に関する問題のようです。また甲州街道のような道路沿いの並木は電線への接触防止と枯れ枝の落下を防ぐためと言われています。

古くから親しまれてきた樹種ですが都会ではなんとも肩身が狭いようです。



上は染地の畠脇に立つクヌギ。のびのびと枝をはつた姿が目に留まります。

また元ハリウッド化粧品のオオカンザクラや仙川駅前のソメイヨシノなどは、市民の力で美しい姿を残しています。桜には特別な想いを抱く日本人ですが、ケヤキその他の樹木も植物公園だけでなく、屋敷林等、様々な場所で本来の姿の美しさを楽しみたいものです。

この4点はどれも団地周辺の樹木です。プラタナスなどは夏には見事に葉が茂りますが、毎年枝を切るので根がはりにくく、台風のときなどは倒木がおきやすくなるようです。

二つ目は成虫で越冬する種。これにはカニ山にも多く見られるムラサキシジミやキタテハ、ヒオドシチョウ等が含まれます。

三つ目は春に新個体が出現するため、目立つ種で、モンシロチョウをはじめとするほとんどのチョウをはじめとするほとんどのチョウがこれに含まれます。一度、ゆっくりとチョウを眺めてみてはいかがでしょう。（石川和宏）



モンシロチョウ



ムラサキシジミ

春のチョウ

年度も替わり、暖かい日が続く今日この頃。桜やスミレも開花し、春も真っ盛りとなりました。

ヒマラヤスギ



モミジ



イチヨウ

調布の虫

生き物

花の履歴書⑧

戸部英貞(絵・文)

カタクリ(片栗)

ユリ科



Erythronium japonicum Decne.

「もののふの八十少女らが汲みまがふ寺井の上の堅香子の花」(19-4143)これは万葉集の中の一首で、堅香子は力タクリの古名。

落葉樹の林床に、春の陽射しを受けて群れ咲くカタクリと少女たちの初々しい姿を重ね、春を迎えた喜び溢れる様子を心憎いほど表現された作品だ。

まだ残雪が残る林の中で、雪解けと同時に花を咲かせ、青葉が茂る頃には地上から消えてしまうカタクリ。このようないい早春の一時だけ地上に現れる、春の訪れを告げる植物を、歐米では春の儂いものを意味するSpring ephemeralや「春を運ぶ妖精」と呼んでいる。カタクリは琉球を除く日本全

域から中国、朝鮮、樺太まで落葉広葉樹林に群生し、特別珍しい植物ではないが、人里近くの自生地は開発によつて失われ、都市近郊からはだ

んだんと遠ざかつてしまつた。市内にも国分寺崖線の雑木林には、あちこちで見られたが、今では高速道路の建設や宅地開発などで失われ、農業高校実習場や、その近くの高速道路脇などに残るだけになつてしまつた。

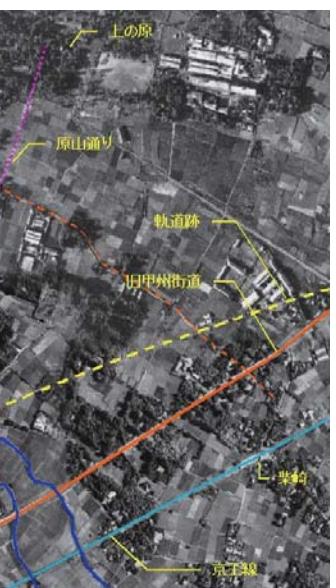
カタクリは地上に出ている期間が短く、成長期間が僅かのため、種子から花を咲かせるまで、8年を要するといわれる。その鱗茎には良質の澱粉が含まれ、これが本当の片栗粉だが、市販されている片栗粉はジャガイモの澱粉で、名前だけが残されている。

鱗茎は毎年更新され、鱗茎の下に新たな鱗茎を作るのでも、年々深くなり、花の咲く頃には地中30cmもの深さになる。山里では春の山菜として葉や花を引き抜いて採取するが、鱗茎部分は残されているので、数年後には花を咲かせる程になる。

② 思い出の中の野川 (上の原から錢湯へ)

ふるやとの 風景

文 瀬本敏行



再び畑の畔のような路を五〇mほど（七中体育館西側の道）行くと、堤状に盛土された旧京王電気軌道の軌道跡に出ました。軌道跡は旧甲州と三鷹街道の交わる布田交差点で再び甲州街道の南に出て今の京王線に合流していますが、「八雲温泉」はその途上、国領神社の北東にありました。途中で栗を拾つたり、今の二〇号線（新甲州街道）の元となつた道や、他の畔などを通つて錢湯につっていました。

野川は大雨でよく氾濫しました。現「細田橋」



4月5日 野草園前のカタクリが満開。今年も可憐な姿が見られました。神代農場では3月末が公開日だったようです。

◆若葉緑地の会

◆入間・樹林の会

◆力二山の会

卷之三

2月20日(日) 参加者 13名
駐車場横の雑木林広場横の暗いヤブで
直径數十センチもある太い倒木の片づ
け、サネカズラの蔓切り、アオキなどの
伐採などをしました。散策路を歩いてき
てのヤブは安全上も問題でしたが、すつ
きりと明るくなりました。子どもたちも
人もよく手伝ってくれ、人手が多くとて
も仕事がはがどりました。

2月は前日の雪でお休み
3月12日(日) 晴れ 参加者5名
・シユロ抜き100本以上(シユロの葉
切りも)
・その他、落ち葉かきや清掃
時時点で2人だった参加者も最後は5
人になりました。
前日の地震のショックで皆疲れ気味で一
たが樹林には春の兆しが…

3／5 (土) 晴れ そぞろ歩き
「上石原と布田崖線を歩く」というタイトルで一般参加者の方を募つてモニターメンバーが案内をしました。

旧甲州街道沿いには古くからのお屋敷が残っています。そこに残る大きな樹木を見学しながら布田崖線へ向かい、凸凹山児童公園や若宮八幡宮脇の小さな崖線と府中用水を見学しました。



間伐材の片付け



雪の大坂

2年近く積み上げていた間伐した枝の整理を虫の出でくる前に片付けました。山の様に積み上げた枝の上に乗るとボキボキと折れて、土に返る過程の途中を見て貰いました。

ウカラ、メジロが啼いていま
3月27日(日) 参加者5名
準備体操をしているとツグ
をつへば ひぐへみへ。村木

が横で餌

(鑄治)

間伐した枝の整理、花壇の手入れ。南側の崖部分の道作りの為の整備をする。この部分はあまり手を入れて無く直ぐに背丈ほど草に覆われてしまうので、来年度は力を入れたい所です。

草本類はホタルブクロ、タネツケバナ、ミミナグサ、ハコベ、タビラコ、ジュウニトエ、ムラサキケマン、ノミノツヅリその他、帰化植物も含め21種を確認しま

3月24日(木) 参加者4名

上部広場の草取り、入口道に横木を埋める。緑地内と大坂のゴミ拾い。皆さんが自分の庭だと思って下さると良いのですが。
ドバト、ツグミ、オナガ、コゲラ、ジヨウ
ウビタキが来てています。(住田)



#ワラ



ツバキ



前日の地震の話をしながらササ刈り



ウグイスカグラの小さな花

最後は若宮八幡宮境内の大木を観察。間違って付けられている樹名板があり、これは行政で改善して欲しい。社の裏手には沢山の二輪草が花を咲かせるはずだが、当日は全く見当たらなかった。



お庭の中へ入れて頂いたお宅には若宮八幡の用材の一端をご神体とする稻荷社が。後ろには大きなヒイラギ

